

6月19日 名前

中学に入って英語を習い始めた頃。自分の名字が嫌いになった。「愛川って、英語で言う
とラブリーバーやな。ラブちゃんや、ラブちゃん」

そもそも以前から自分の名字のせいで嫌な思いを散々してきた。出席番号は必ず一番だ
し、「キンキン、ケロンパ」ってからかわれるし。「愛」という字も嫌いだった。画数は多い
し、何だか甘ったるくて気恥ずかしいし。それが「ラブ」とは。一層嫌になった。

それから自分の名字に対するコンプレックスは持ち続けていた。が、大学の時、友人と
中国旅行をした際に、その思いはつゆと消えた。現地で「我的名字是愛川」と自己紹介をす
るたびに、中国の人たちは「いい名前だ(と言っていたと思う)」と感心してくれたのだ。

そんな折、たまたま叔父から「愛川」の由来を聞くことがあった。

「和歌山の日高川の支流に愛川(あたいがわ)という川があって、愛川家はそこの出身らし
い」

数年前、父を亡くした。様々な手続きをする中で父の戸籍を見る機会を得、顔も見たこと
のない祖父や曾祖父の名前をそこに見つけた。ふと、叔父の話を頼りに自分のルーツの集落
を見てみたいという衝動に駆られた。

車を走らせること約4時間。清流沿いにその集落はあった。山間の小さな集落。川には
「愛川」と看板が掛かっている。全く知らない土地であるはずなのに不思議と懐かしい匂い
がしていた。

